

# 広川 三郎（ひろかわ・さぶろう）

## 1、プロフィール

歌人。昭和 15 年小学生のとき恩師の影響により作歌。21 年「群山」創刊に参加し扇畑忠雄に師事。40 年「アララギ」に入会。真実の追求、清新な抒情の歌を作り続けた。

<生没>

1924(大正 13)年4月 27 日～2005(平成 17)年 11 月 19 日

<代表作>

『海のいろ』

<青森との関わり>

八戸市生まれ。短歌結社「ハマナス短歌会」、「群山八戸歌会」を結成し、後進の育成。青森県歌人懇話会理事。

## 2、作家解説

父浩(弘前中学校教師)と母ひでの長男として弘前市若党町に生まれる。

本名は大久保三蔵。昭和 15 年小学校のときの恩師佐藤政五郎に短歌の手解きを受ける。17 年に佐々木章村らと暁星短歌会を結成。21 年に東北アララギ「群山」創刊と同時に入会。25 年頃より家業に専念し 10 年ほど休詠したが、36 年に奈良兵亮の勧めで同人誌「氷炎」に入り作歌を再開した。

40 年に「アララギ」、42 年に青森アララギ会に入会、平成 10 年「アララギ」の廃刊に伴い「新アララギ」創刊に参加。積極的に多くの会に所属し作歌の場を作り、『海のいろ』の後記に「私の歌など、野の花だと揚言する程の矜持もない。しいて言うならば、雑草の中の石ころのようなものである」と謙遜して述べているが、真実の追求、清新な抒情の歌を作り続けた。

昭和 46 年に本保與吉の清遠短歌会の結成に参画。自らは 51 年に「ハマナス短歌会」、61 年に「群山八戸歌会」を結成。平成 3 年に「八戸中央高校公開講座」の短歌の講師等積極的に地域の短歌の普及につとめた。

デーリー東北歌壇、北奥羽短歌大会、青森県歌人懇話会新人賞等の選者、青森県歌人懇話会理事を務めた。

地域の短歌の普及と発展、後進の育成に尽力し、平成元年に八戸文化賞、5 年に八戸市文化功労賞を受賞した。

歌碑は八戸公園に 1 基建立された。

### 3、資料紹介

○『海のいろ』

図書

1985(昭和 60)年 5 月 10 日

195 mm × 135 mm

昭和 38 年から 59 年までの作品の中から 522 首を選んで年代順に収め、タイトルは海のそばに住み、海に関わる歌が多いことから名付けられた第 1 歌集。高梨芳泉の題字、著者の近影、後記、略歴を掲載している。